

第46回「てのひら文庫賞」岐阜県読書感想文コンクール

最優秀賞・岐阜県知事賞 作品

3年自由図書部門／読んだ本・たつた2℃で…地球の気温上昇がもたらす環境災害

最優秀賞・岐阜県知事賞

「たつた2℃で…」

岐阜市立徹明さくら小学校 山本萌

私は、「たつた2℃で…」という題名を見た時、「たつた」というのは、どういう意味なのだろう。と、ぎ問に思い、きょう味を持ちました。この本を読んで私がとてもびっくりした事は、魚にとって2℃は、人間が感じる20℃くらいの大きなちがいがある事です。

ここで思った事は、人間は、自分で体温を調せつ出来るけれど魚たちは、体温を調せつ出来ないのでとても心ぱいになりました。人間の私は、2℃体温が上がつたら体の具合がとても悪くなります。魚たちの事を考えたら、むねがくるしくなりました。魚たちの事をしんげんに考えなければいけません。他にもおどろいた事はたくさんあります。中でもサンゴしようは海水の温どが2℃上がると白くなつて死んでしまう事です。サンゴのねんえきを食べていた生き物がいなくなってしまう事を想ぞうして私は、「今すぐにでも何とかしないと!!海の生き物が全めつし

てしまう!!」と、とてもあせつた気持ちになりました。「たつた2℃上がつただけで、こんなにもかわつてしまふ事をみんなは、知つているのかな?みんなできよう力して、地球温だん化をふせがないといけない。」と強く思いました。一番むねがくるしくなつた所は、チョウが出来た所です。私は、小さいころからチョウや花が大好きです。今年の春は、モンシロチョウをたまごから育てました。よう虫になり、キヤベツを食べているすぐたがわいくてチョウになつた時は、とても感動しました。チョウのよう虫が食べる野さいや植物も気温が高すぎたりひくすぎたりするとよく育ちません。とくにチョウのよう虫は、食べる物の好きくらいがあるので、好きな食べ物が育たないと死んでしまいます。私も育ててみてチョウはキヤベツのしゆるいやせんでも好ききらいがあつたので、この話はすごくよかったです。私は、育て

がら、たつた2℃上がつただけでチョウもいなくなつてしまふ事がとても悲しくなりました。「私が今、地球温だん化のために出来る事は何だろ?」と深く考えました。エアコンの温どなどのせつ電せつ水、リサイクルについて考える事、ゴミをへらす事を毎日考えながら生活するようになりました。手をあらう時やティッシュを使う時にこの本の表紙の悲しい顔をした動物たちを思い出すので、気をつけようといつも思つてします。この先、地球から人間の私も、私の大好きな動物やこん虫、植物がえいえんにきえてしまわなければなりません。ゴマファザラシやウミガメ、ジャイアンドパンダなどの話もとても心にのこる話ばかりなので、多くの人に、この本を読んでほしいと思いました。そして「たつた2℃」でも、「たつた」ではすまされない、大へんな事が世界中でおきている事を考えながら行動していきたいです。